

(中間C)

評価分科会総合評価

研究課題名：気象観測技術等を活用した火山監視・解析手法の高度化に関する研究

評価分科会（地震火山分野）

分科会長：古川信雄

委員：小泉尚嗣、田中正之、泊 次郎、渡辺秀文

評価年月日：平成24年2月9日

1. 総合評価

- (1) 継続の可否 ☒ 継続 ☐ 中止
(2) 修正の必要の有無 ☐ 修正の必要あり ☒ 修正の必要なし

2. 総合所見

東北地方太平洋沖地震の発生に伴い、近い将来の火山噴火が懸念されている状況下において、火山噴火の前兆現象検出や噴火後の降灰予測の高度化を目指す本研究課題は、社会的意義の高い研究であり、研究成果が気象庁の現業に早期に用いられることが望まれている。特に量的な降灰予報については、新燃岳や桜島の噴火に伴い、実用化への期待がますます高まっている。

研究は順調に進捗しており、成果も十分に出ていると評価できる。特に、2011年霧島山新燃岳噴火に伴い、当初計画を変更して新燃岳を解析対象に加えて降灰予測等に関する研究を実施し、量的な降灰予報の業務化に向けた大きな成果をあげたことは高く評価できる。気象レーダーデータの解析によって噴煙高度の時間変化を観測できることを実証し、それを初期値として用いることにより噴煙の移流拡散予測が向上できることを明らかにしたことは、火山学的にとっても防災にとっても大きな成果である。今後は、衛星データも活用することによって、より高度な降灰予報につなげて欲しい。

今後とも、突発現象に対して柔軟に対応しつつ、研究を遅滞なく進めていただきたい。